

## 鳥取県病原微生物検出情報

(平成 30 年 1 月検出分;検体採取平成 29 年 12 月～平成 30 年 1 月)

平成 30 年 2 月 13 日

鳥取県衛生環境研究所

### 1 インフルエンザについて

臨床診断名がインフルエンザの検体 17 件 (検体採取 12 月 25 日～1 月 23 日)について検査を実施し、9 件でインフルエンザ A 型、6 件でインフルエンザ B 型が検出され、残り 2 件では A 型及び B 型ともに検出されませんでした。A 型が検出された 9 件のうち、6 件は A2009 型、残り 3 件は AH3 型でした。また、B 型が検出された 6 件はすべて山形系統でした。(詳細は表 1 のとおり)

表 1 今シーズン鳥取県インフルエンザ検出情報

注) 病原体定点等からの「インフルエンザ、インフルエンザ様疾患」診断検体からの検査結果(1/1)								
年	検体採取時期 月日	検体採取場所	検出数	A型別、B系統別				備考
				A2009型	AH3型	Bvictoria	B山形	
2017	11月30日	西部	1	0	1	0	0	
	11月30日	中部	1	0	1	0	0	
	12月4日	西部	1	1	0	0	0	
	12月11日	中部	1	1	0	0	0	
	12月11日	西部	1	0	1	0	0	
	12月18日	西部	1	0	0	1	0	
	12月19日	中部	1	0	0	0	1	
	12月25日	中部	1	1	0	0	0	
2018	12月25日	西部	1	0	0	0	1	
	1月4日	東部	1	0	1	0	0	
	1月5日	中部	1	0	0	0	1	
	1月5日	西部	1	1	0	0	0	
	1月9日	西部	1	0	0	0	1	
	1月10日	西部	2	2	0	0	0	
	1月10日	西部	1	0	0	0	1	
	1月12日	東部	1	1	0	0	0	
	1月12日	中部	1	1	0	0	0	
	1月16日	西部	1	0	0	0	1	
病原体定点PCR検査合計 (2017/11/30 - 現在)			22	8	6	1	7	

全国のインフルエンザ患者から分離・検出されたウイルスについては、国立感染症研究所の病原微生物検出情報 (2 月 2 日作成) によると、今シーズンは、46 週以降 A2009 型が最も多く、次いで B 山形系統が報告されています。(図 1)

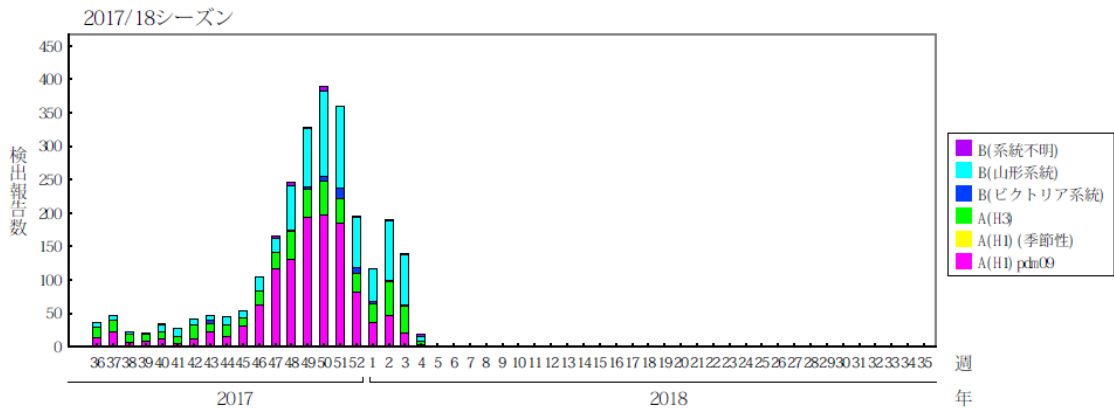


図1 週別インフルエンザウイルス分離・検出報告数

## 2 感染性胃腸炎

臨床診断名が感染性胃腸炎の検体7件（検体採取12月上旬～1月上旬）について、検査を行いました。検出されたウイルスは、ノロウイルスGⅡが6件でした。（詳細は表2のとおり）

表2 検査状況（感染性胃腸炎）

検体番号	検体採取時期	ノロウイルス	サポウイルス	A群ロタウイルス	アデノウイルス40/41	アストロウイルス	アイチウイルス
180002	12月中旬	検出(GⅡ)					
180003	12月下旬	検出(GⅡ)					
180012	12月中旬	—	—	—	—	—	—
180017	1月上旬	検出(GⅡ)					
180018	12月上旬	検出(GⅡ)					
180019	12月上旬	検出(GⅡ)					
180024	12月上旬	検出(GⅡ)					
検出計		6件 (GⅡ:6)	0件	0件	0件	0件	0件

(—): 未検出

## 3 流行性角結膜炎

臨床診断名が流行性角結膜炎の検体2件（検体採取12月中旬・下旬）について検査を行ったところ、アデノウイルスが2件検出されました。検出されたアデノウイルスの型は、1件(番号180001)が3型、残り1件(番号180013)が7型でした。

国立感染症研究所の病原微生物検出情報（2月2日作成）によると、全国の流行性角結膜

炎患者から分離されたウイルスについては、2017年には3型は年末から多く検出されていますが、7型については検出されていません。(図3)

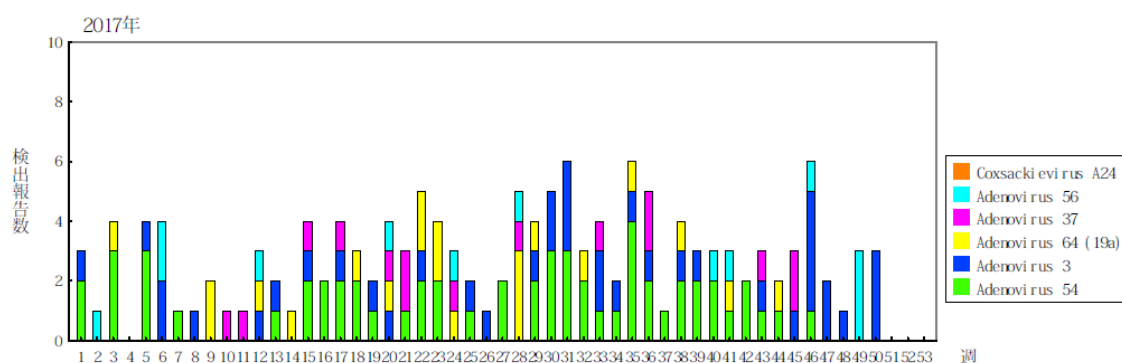


図3 週別アデノウイルス等分離・検出報告数

#### 4 A 群溶血性レンサ球菌感染症

臨床診断名が「A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎・インフルエンザ」の検体1件（検体採取12月中旬・番号180020）について検査を行ったところ、A 群溶血性レンサ球菌が分離されました。分離された菌についてはT12型でした。

全国のA 群溶血性レンサ球菌感染症患者から分離された同菌については、国立感染症研究所の病原微生物検出情報（2月2日作成）によると、T12型は2017年では2位、2016年では4位に多く検出されています。(図4)

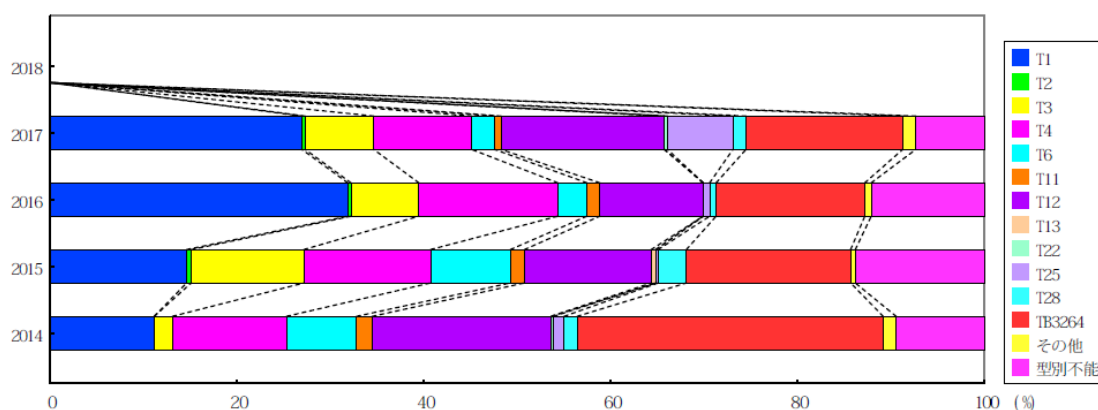


図4 A 群溶血性レンサ球菌 T 型別割合の推移（2014年～2018年）

#### 5 手足口病

臨床診断名が手足口病の検体1件（検体採取12月上旬・番号180008）について検査を実施したところ、エンテロウイルスA71が検出されました。

全国の手足口病患者から分離・検出されたウイルスについては、国立感染症研究所の病原微生物検出情報（2月2日作成）によると、エンテロウイルスA71は2014年及び2017年で2

番目に多い報告数となっています。(図5)

\*各都道府県市の地方衛生研究所からの分離/検出報告を図に示した

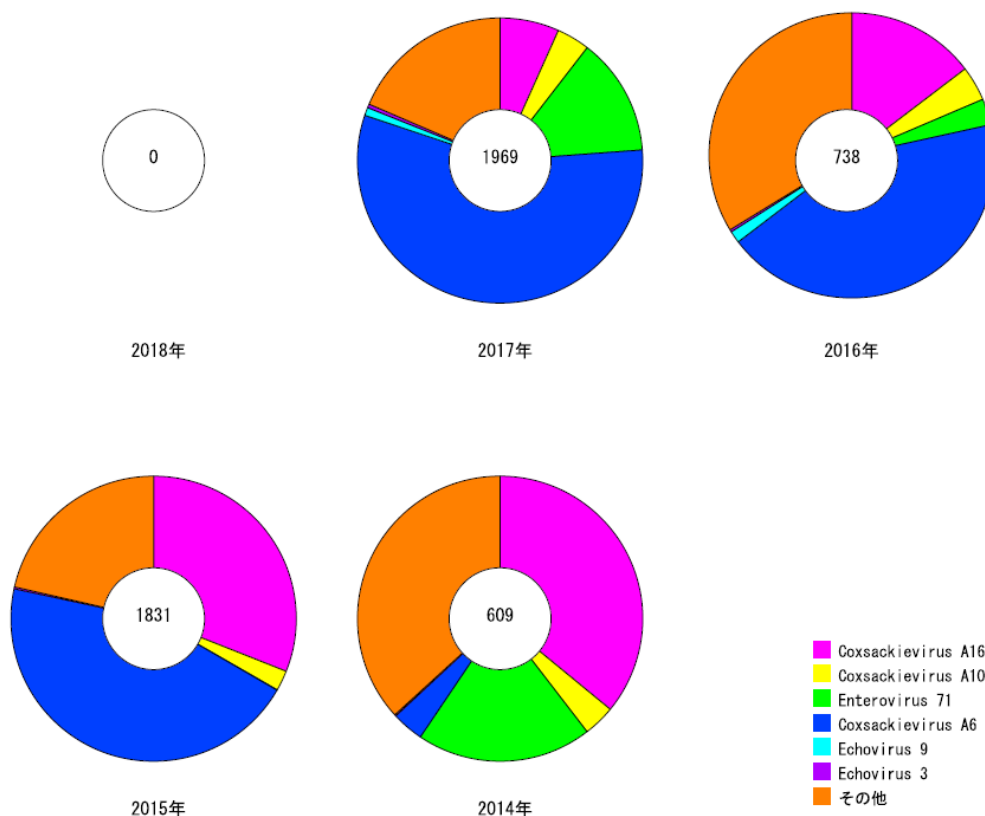


図5 手足口病患者から分離・検出されたウイルス (2014年～2018年)

\*円グラフの中の数字は各年の分離・検出報告の総数(本年2月2日までに報告された数)

## 6 無菌性髄膜炎

臨床診断名が無菌性髄膜炎である検体1件(検体採取1月上旬・番号180006)について、ムンプスウイルス、アデノウイルス、エンテロウイルス、ヘルペスウイルスの検査を行いました。これらのウイルスは検出されませんでした。

# 鳥取県病原微生物検出情報

(平成 30 年 2 月検出分;検体採取平成 30 年 1 月～平成 30 年 2 月)

平成 30 年 3 月 13 日

鳥取県衛生環境研究所

## 1 インフルエンザウイルスについて

臨床診断名がインフルエンザ（A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎の併発も含む）の検体 20 件（検体採取 1 月 24 日～2 月 20 日）について検査を実施し、5 件でインフルエンザ A 型、11 件でインフルエンザ B 型が検出され、残り 4 件では A 型及び B 型ともに検出されませんでした。A 型が検出された 5 件のうち、4 件は AH3 型、残り 1 件は A2009 型でした。また、B 型が検出された 11 件はすべて山形系統でした。（詳細は表 1 のとおり）

表 1 今シーズン鳥取県インフルエンザ検出情報

注) 病原体定点等からの「インフルエンザ、インフルエンザ様疾患」診断検体からの検査結果(1/1)								
検体採取時期		検体採取場所	検出数	A型別、B系統別				備考
年	月日			A2009型	AH3型	Bvictoria	B山形	
2017	11月30日	西部	1	0	1	0	0	
	11月30日	中部	1	0	1	0	0	
	12月4日	西部	1	1	0	0	0	
	12月11日	中部	1	1	0	0	0	
	12月11日	西部	1	0	1	0	0	
	12月18日	西部	1	0	0	1	0	
	12月19日	中部	1	0	0	0	1	
	12月25日	中部	1	1	0	0	0	
2018	12月25日	西部	1	0	0	0	1	
	1月4日	東部	1	0	1	0	0	
	1月5日	中部	1	0	0	0	1	
	1月5日	西部	1	1	0	0	0	
	1月9日	西部	1	0	0	0	1	
	1月10日	西部	2	2	0	0	0	
	1月10日	西部	1	0	0	0	1	
	1月12日	東部	1	1	0	0	0	
	1月12日	中部	1	1	0	0	0	
	1月16日	西部	1	0	0	0	1	
	1月22日	東部	1	0	1	0	0	
	1月23日	中部	1	0	1	0	0	
	1月23日	西部	1	0	0	0	1	
	1月24日	東部	1	0	1	0	0	
	1月26日	西部	1	0	0	0	1	
	1月29日	西部	1	0	0	0	1	
	1月30日	中部	1	0	0	0	1	
	2月1日	東部	1	0	0	0	1	
	2月2日	中部	1	0	0	0	1	
	2月5日	東部	1	0	1	0	0	
2月5日	西部	2	0	0	0	2		
2月6日	西部	1	0	0	0	1		
2月9日	中部	1	1	0	0	0		
2月10日	西部	1	0	0	0	1		
2月13日	東部	1	0	0	0	1		
2月14日	西部	1	0	1	0	0		
2月19日	東部	1	0	1	0	0		
2月20日	西部	1	0	0	0	1		
病原体定点PCR検査合計 (2017/11/30 - 現在)			38	9	10	1	18	

全国のインフルエンザ患者から分離・検出されたウイルスについては、国立感染症研究所の病原微生物検出情報（3月2日作成）によると、1月以降は、B山形系統が最も多く、次いでAH3型、A2009型の順に報告されています。（図1）

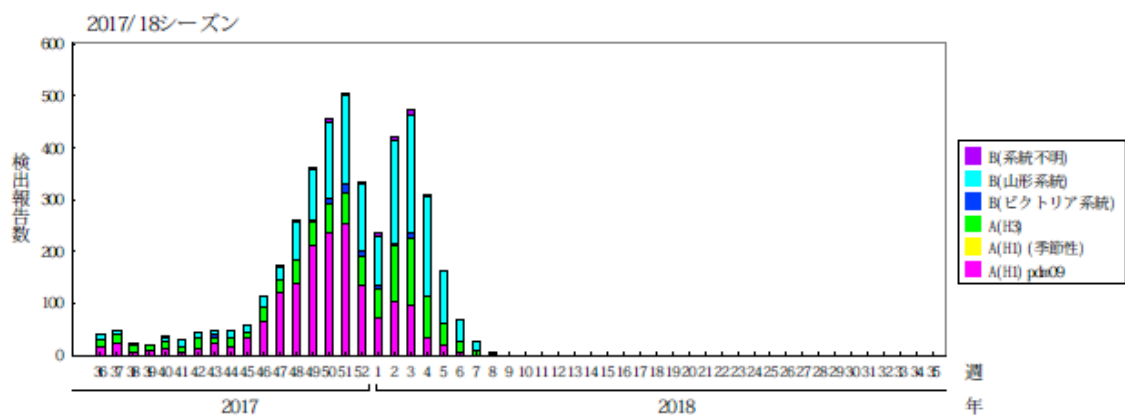


図1 週別インフルエンザウイルス分離・検出報告数

## 2 感染性胃腸炎

臨床診断名が感染性胃腸炎の検体7件（検体採取1月中旬～2月上旬）について、検査を行いました。検出されたウイルスは、A群ロタウイルスが3件でした。（詳細は表1のとおり）

表1 検査状況（感染性胃腸炎）

検体番号	検体採取時期	ノロウイルス	サポウイルス	A群ロタウイルス	アデノウイルス40/41	アストロウイルス	アイチウイルス
180045	2月上旬	—	—	—	—	—	—
180046	2月上旬	—	—	—	—	—	—
180047	1月下旬	—	—	検出	/	/	/
180051	2月上旬	—	—	検出	/	/	/
180052	1月中旬	—	—	—	—	—	—
180053	1月中旬	—	—	検出	/	/	/
180054	1月下旬	—	—	—	—	—	—
検出計		0件	0件	3件	0件	0件	0件

(—): 未検出

### 3 流行性角結膜炎

臨床診断名が流行性角結膜炎の検体3件（検体採取1月下旬～2月上旬・検体番号180031～180033）について検査を行ったところ、アデノウイルスが1件検出されました。検出されたアデノウイルスの型は2型でした。

国立感染症研究所の病原微生物検出情報（3月2日作成）によると、全国の流行性角結膜炎患者から分離されたウイルスについては、2017年には3型は年末から多く検出されていますが、2型については検出されていません。（図2）

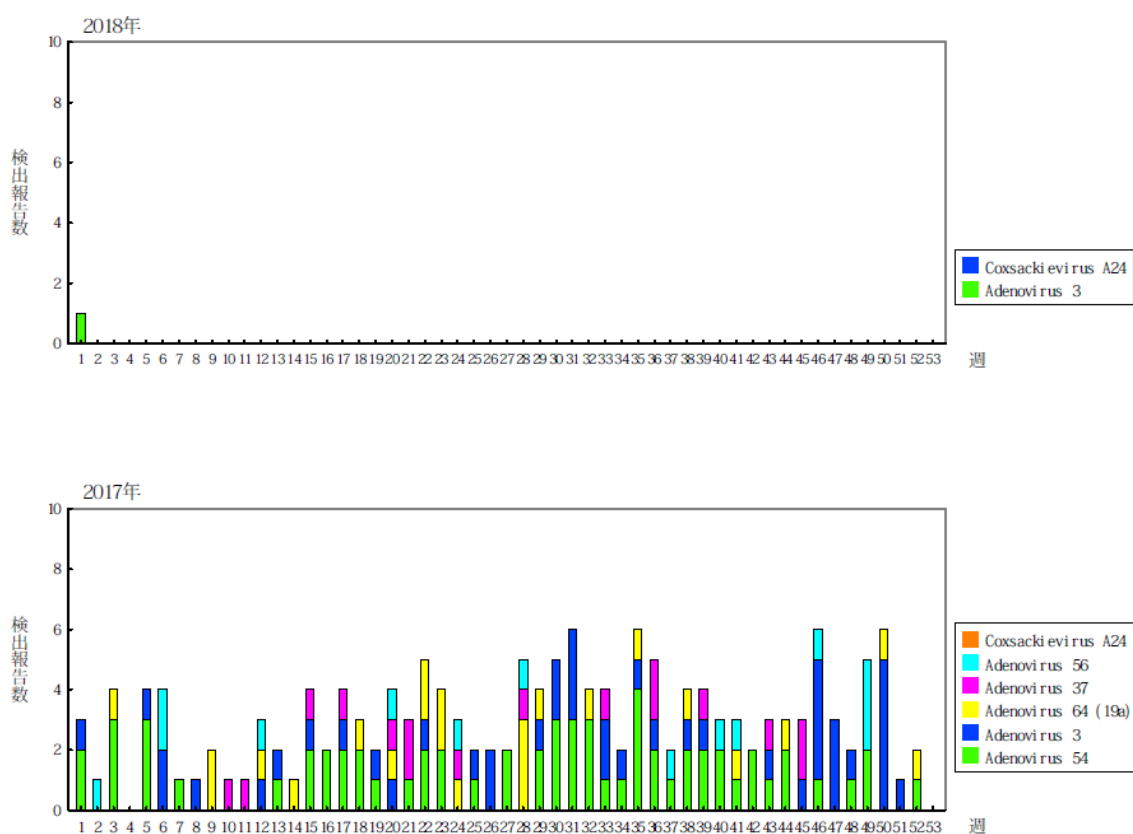


図2 週別アデノウイルス等分離・検出報告数

#### 4 咽頭結膜熱

臨床診断名が咽頭結膜熱の検体2件（検体採取1月中旬、2月上旬・検体番号180055、180057）について検査を行ったところ、アデノウイルスが2件検出されました。検出されたアデノウイルスの型は1型と2型が各1件でした。

国立感染症研究所の病原微生物検出情報（3月2日作成）によると、全国の咽頭結膜熱患者から分離されたウイルスについては、2017年には2型は年末から多く検出されるとともに、1型も検出されています。（図3）

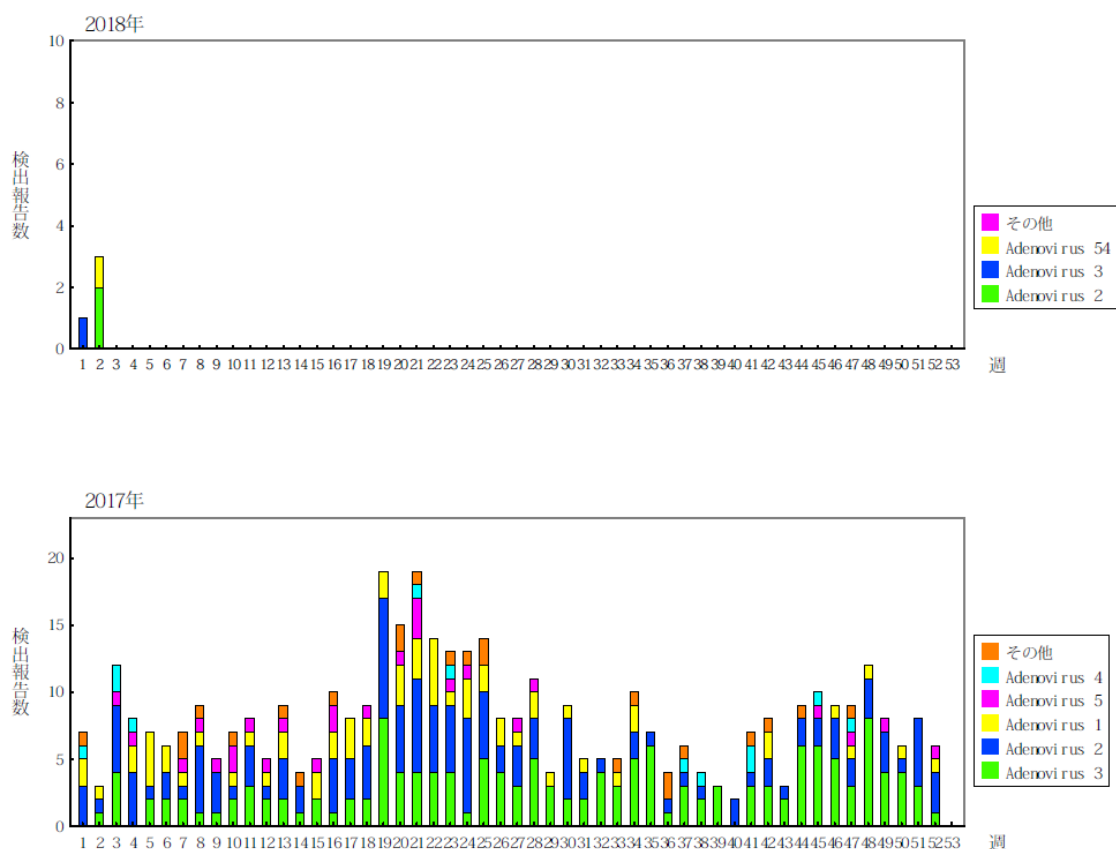


図3 週別アデノウイルス等分離・検出報告数



## 5 A 群溶血性レンサ球菌感染症

臨床診断名が A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎（インフルエンザの併発も含む）の検体 3 件（検体採取 1 月下旬～2 月上旬・検体番号 180042、180060、180062）について検査を行ったところ、1 件から A 群溶血性レンサ球菌が分離されました。分離された菌については T1 型でした。

全国の A 群溶血性レンサ球菌感染症患者から分離された同菌については、国立感染症研究所の病原微生物検出情報（3 月 2 日作成）によると、T1 型は、2016 年以降最も多く検出されています。

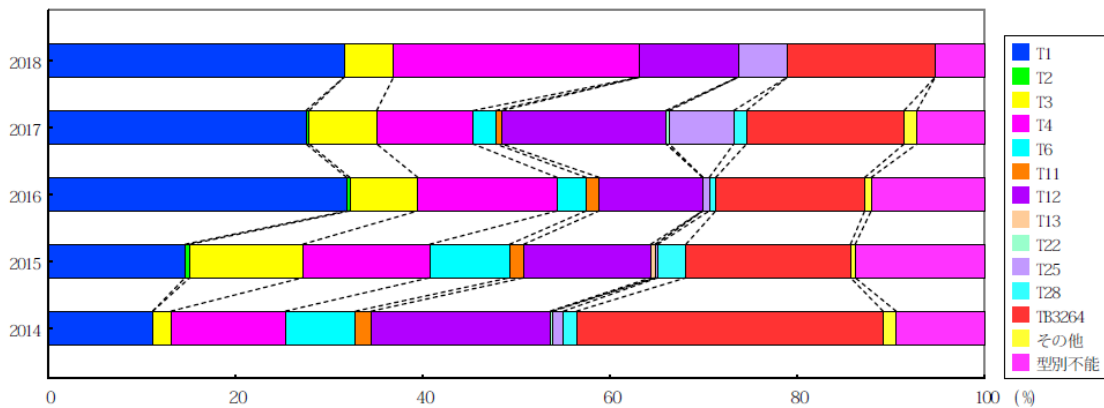


図2 A 群溶血性レンサ球菌 T 型別割合の推移（2014 年～2018 年）

## 6 水痘

臨床診断名が水痘の検体 2 件（検体採取 1 月中旬、2 月上旬・検体番号 180000、180056）について検査を行ったところ、すべてヘルペスウイルス 3 型（水痘・帯状疱疹ウイルス）が検出されました。

## 7 無菌性髄膜炎

臨床診断名が無菌性髄膜炎である検体 2 件（検体採取 1 月下旬・番号 180036、180050）について、ムンプスウイルス、アデノウイルス、エンテロウイルス、ヘルペスウイルスの検査を行いました。これらのウイルスは検出されませんでした。

## 鳥取県病原微生物検出情報

(平成 30 年 3 月検出分;検体採取平成 30 年 2 月～平成 30 年 3 月)

平成 30 年 4 月 10 日

鳥取県衛生環境研究所

### 1 感染性胃腸炎

臨床診断名が感染性胃腸炎の検体 8 件（検体採取 2 月中旬～2 月下旬）について、検査を行いました。検出されたウイルスは、A 群ロタウイルスが 2 件、ノロウイルス GII が 3 件、サポウイルスが 1 件でした。（詳細は表 1 のとおり）

表 1 検査状況（感染性胃腸炎）

検体番号	検体採取 時期	ノロ ウイルス	サポ ウイルス	A 群ロタ ウイルス	アデノ ウイルス 40/41	アストロ ウイルス	アイチ ウイルス
180074	2 月下旬	検出 (GII)		—			
180075	2 月下旬	検出 (GII)		—			
180076	2 月中旬	検出 (GII)		—			
180080	2 月下旬	—	—	—	—	—	—
180081	2 月中旬			検出			
180082	2 月中旬	—	検出	—			
180083	2 月中旬			検出			
180086	2 月中旬	—	—	—	—	—	—
検出計		3 件 (GII : 3)	1 件	2 件	0 件	0 件	0 件

(—) : 未検出

### 2 ロタウイルス感染性胃腸炎について

臨床診断名がロタウイルス感染性胃腸炎の検体 1 件（検体採取 2018 年 2 月下旬・番号 180084）について検査を行いましたところ、A 群ロタウイルスが検出されました。

### 3 インフルエンザウイルスについて

臨床診断名がインフルエンザの検体 9 件（検体採取 2 月 27 日～3 月 20 日）について検査を実施し、5 件でインフルエンザ A 型、4 件でインフルエンザ B 型が検出されました。A 型はすべて AH3 型、B 型はすべて山形系統でした。（詳細は表 1 のとおり）

表1 今シーズン鳥取県インフルエンザ検出情報

注) 病原体定点等からの「インフルエンザ、インフルエンザ様疾患」診断検体からの検査結果(1/1)								
検体採取時期		検体採取場所	検出数	A型別、B系統別				備考
年	月日			A2009型	AH3型	Bvictoria	B山形	
2017	11月30日	西部	1	0	1	0	0	
	11月30日	中部	1	0	1	0	0	
	12月4日	西部	1	1	0	0	0	
	12月11日	中部	1	1	0	0	0	
	12月11日	西部	1	0	1	0	0	
	12月18日	西部	1	0	0	1	0	
	12月19日	中部	1	0	0	0	1	
	12月25日	中部	1	1	0	0	0	
12月25日	西部	1	0	0	0	1		
2018	1月4日	東部	1	0	1	0	0	
	1月5日	中部	1	0	0	0	1	
	1月5日	西部	1	1	0	0	0	
	1月9日	西部	1	0	0	0	1	
	1月10日	西部	2	2	0	0	0	
	1月10日	西部	1	0	0	0	1	
	1月12日	東部	1	1	0	0	0	
	1月12日	中部	1	1	0	0	0	
	1月16日	西部	1	0	0	0	1	
	1月22日	東部	1	0	1	0	0	
	1月23日	中部	1	0	1	0	0	
	1月23日	西部	1	0	0	0	1	
	1月24日	東部	1	0	1	0	0	
	1月26日	西部	1	0	0	0	1	
	1月29日	西部	1	0	0	0	1	
	1月30日	中部	1	0	0	0	1	
	2月1日	東部	1	0	0	0	1	
	2月2日	中部	1	0	0	0	1	
	2月5日	東部	1	0	1	0	0	
	2月5日	西部	2	0	0	0	2	
	2月6日	西部	1	0	0	0	1	
	2月9日	中部	1	1	0	0	0	
	2月10日	西部	1	0	0	0	1	
	2月13日	東部	1	0	0	0	1	
	2月14日	西部	1	0	1	0	0	
	2月19日	東部	1	0	1	0	0	
	2月20日	西部	1	0	0	0	1	
	2月27日	東部	1	0	1	0	0	
	2月27日	西部	1	0	1	0	0	
	3月1日	東部	1	0	0	0	1	
3月2日	中部	1	0	1	0	0		
3月6日	西部	1	0	1	0	0		
3月13日	中部	1	0	0	0	1		
3月15日	西部	1	0	1	0	0		
3月19日	西部	1	0	0	0	1		
3月20日	中部	1	0	0	0	1		
病原体定点PCR検査合計 (2017/11/30 - 現在)			47	9	15	1	22	

全国のインフルエンザ患者から分離・検出されたウイルスについては、国立感染症研究所の病原微生物検出情報（4月6日作成）によると、1月以降は、B山形系統が最も多く、次いでAH3型、A2009型の順に報告されています。（図1）

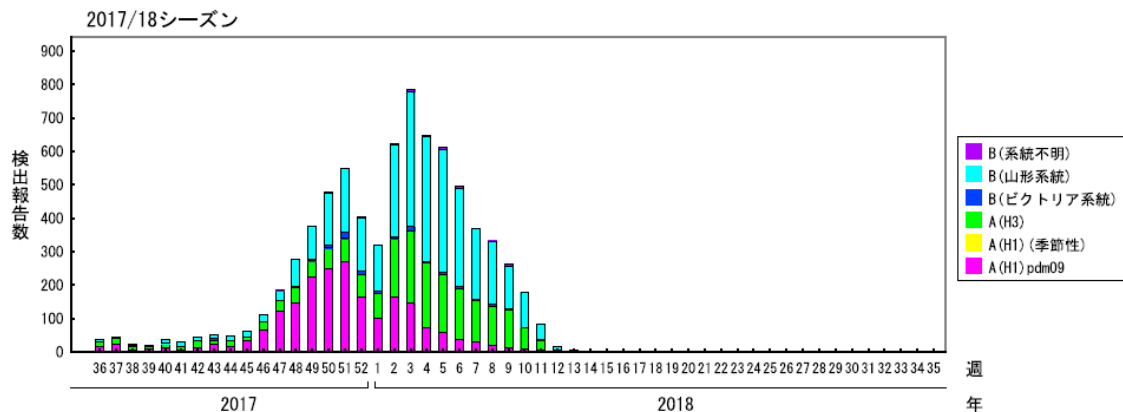


図1 週別インフルエンザウイルス分離・検出報告数

#### 4 RS ウイルス感染症

臨床診断名がRS ウイルス感染症の検体1件（検体採取2月上旬・番号180079）について検査を実施したところ、RS ウイルス（B 亜型）が検出されました。

#### 5 流行性角結膜炎

臨床診断名が流行性角結膜炎の検体2件（検体採取2月中旬、下旬・検体番号180068、180073）について検査を行いました。アデノウイルスは検出されませんでした。

#### 6 急性出血性結膜炎

臨床診断名が急性出血性結膜炎の検体1件（検体採取2月下旬・検体番号180069）について検査を行いました。エンテロウイルスは検出されませんでした。

#### 7 A 群溶血性レンサ球菌感染症

臨床診断名がA 群溶血性レンサ球菌咽頭炎の検体1件（検体採取2月下旬・検体番号180087）について検査を行いました。A 群溶血性レンサ球菌は分離されませんでした。

#### 8 無菌性髄膜炎

臨床診断名が無菌性髄膜炎である検体1件（検体採取3月上旬・番号180072）について、ムンプスウイルス、アデノウイルス、エンテロウイルス、ヘルペスウイルスの検査を行いました。これらのウイルスは検出されませんでした。

# 鳥取県病原微生物検出情報

(平成 30 年 4 月検出分;検体採取平成 30 年 3 月～平成 30 年 4 月)

平成 30 年 5 月 10 日

鳥取県衛生環境研究所

## 1 感染性胃腸炎

臨床診断名が感染性胃腸炎の検体 8 件（検体採取 3 月上旬～4 月上旬）について、検査を行いました。検出されたウイルスは、A 群ロタウイルスが 2 件、ノロウイルス GⅡが 1 件でした。（詳細は表 1 のとおり）

表 1 検査状況（感染性胃腸炎）

検体番号	検体採取時期	ノロウイルス	サポウイルス	A 群ロタウイルス	アデノウイルス 40/41	アストロウイルス	アイチウイルス
180098	4 月上旬	—	—	—	—	—	—
180099	3 月下旬	検出(GⅡ)		—			
180100	3 月下旬	—	—	—	—	—	—
180101	3 月下旬	—	—	—	—	—	—
180102	3 月中旬			検出			
180103	3 月上旬			検出			
180104	3 月上旬	—	—	—	—	—	—
180106	3 月下旬	—	—	—	—	—	—
検出計		1 件 (GⅡ:1)	0 件	2 件	0 件	0 件	0 件

(—)：未検出

## 2 ロタウイルス感染性胃腸炎について

臨床診断名がロタウイルス感染性胃腸炎の検体 1 件（検体採取 2018 年 4 月上旬・番号 180105）について検査を行いましたところ、A 群ロタウイルスが検出されました。

## 3 RS ウイルス感染症

臨床診断名が RS ウイルス感染症の検体 1 件（検体採取 3 月中旬・番号 180109）について検査を実施したところ、RS ウイルス（B 亜型）が検出されました。

## 4 インフルエンザウイルスについて

臨床診断名がインフルエンザの検体 4 件（検体採取 3 月 26 日～4 月 16 日）について検査を実施したところ、2 件でインフルエンザ B 型、1 件でインフルエンザ A 型が検出され、残り 1 件については A 型及び

B型ともに検出されませんでした。A型はAH3型、B型はすべて山形系統でした。(詳細は表1のとおり)

表1 今シーズン鳥取県インフルエンザ検出情報

検体採取時期		検体採取場所	検出数	A型別、B系統別				備考
年	月日			A2009型	AH3型	Bvictoria	B山形	
2017	11月30日	西部	1	0	1	0	0	
	11月30日	中部	1	0	1	0	0	
	12月4日	西部	1	1	0	0	0	
	12月11日	中部	1	1	0	0	0	
	12月11日	西部	1	0	1	0	0	
	12月18日	西部	1	0	0	1	0	
	12月19日	中部	1	0	0	0	1	
	12月25日	中部	1	1	0	0	0	
12月25日	西部	1	0	0	0	1		
2018	1月4日	東部	1	0	1	0	0	
	1月5日	中部	1	0	0	0	1	
	1月5日	西部	1	1	0	0	0	
	1月9日	西部	1	0	0	0	1	
	1月10日	西部	2	2	0	0	0	
	1月10日	西部	1	0	0	0	1	
	1月12日	東部	1	1	0	0	0	
	1月12日	中部	1	1	0	0	0	
	1月16日	西部	1	0	0	0	1	
	1月22日	東部	1	0	1	0	0	
	1月23日	中部	1	0	1	0	0	
	1月23日	西部	1	0	0	0	1	
	1月24日	東部	1	0	1	0	0	
	1月26日	西部	1	0	0	0	1	
	1月29日	西部	1	0	0	0	1	
	1月30日	中部	1	0	0	0	1	
	2月1日	東部	1	0	0	0	1	
	2月2日	中部	1	0	0	0	1	
	2月5日	東部	1	0	1	0	0	
	2月5日	西部	2	0	0	0	2	
	2月6日	西部	1	0	0	0	1	
	2月9日	中部	1	1	0	0	0	
	2月10日	西部	1	0	0	0	1	
	2月13日	東部	1	0	0	0	1	
	2月14日	西部	1	0	1	0	0	
	2月19日	東部	1	0	1	0	0	
	2月20日	西部	1	0	0	0	1	
	2月27日	東部	1	0	1	0	0	
	2月27日	西部	1	0	1	0	0	
	3月1日	東部	1	0	0	0	1	
	3月2日	中部	1	0	1	0	0	
	3月6日	西部	1	0	1	0	0	
3月13日	中部	1	0	0	0	1		
3月15日	西部	1	0	1	0	0		
3月19日	西部	1	0	0	0	1		
3月20日	中部	1	0	0	0	1		
3月26日	西部	1	0	0	0	1		
4月2日	西部	1	0	0	0	1		
4月12日	西部	1	0	1	0	0		
病原体定点PCR検査合計 (2017/11/30 - 現在)			50	9	16	1	24	

全国のインフルエンザ患者から分離・検出されたウイルスについては、国立感染症研究所の病原微生物検出情報(5月7日作成)によると、3月26日以降(第13週以降)は、AH3型が最も多く、次いで、B山形系統の順に報告されています。(図1)

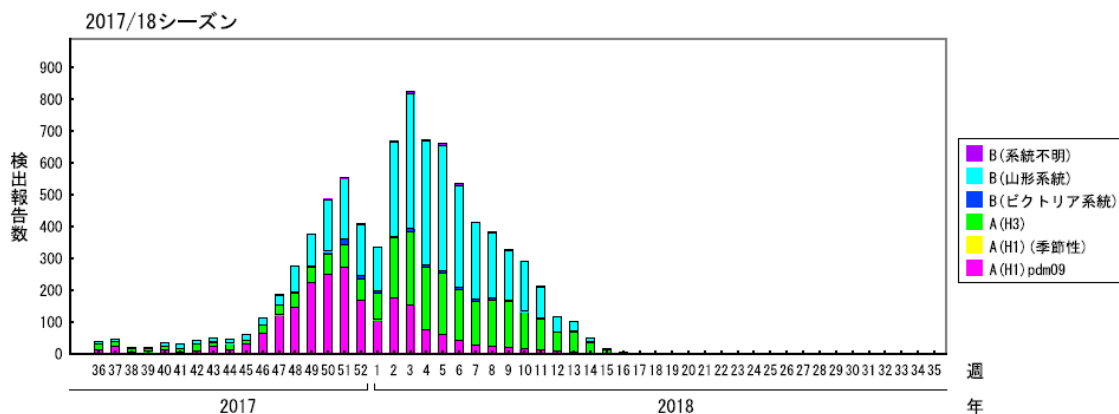


図1 週別インフルエンザウイルス分離・検出報告数

## 5 流行性角結膜炎

臨床診断名が流行性角結膜炎（疑いを含む）の検体3件（検体採取3月中旬、下旬・検体番号180092～180094）について検査を行ったところ、1件（検体番号180094）からアデノウイルス7型が検出され、残りの2件からはアデノウイルスは検出されませんでした。

国立感染症研究所の病原微生物検出情報（5月7日作成）によると、全国の流行性角結膜炎患者から分離・検出されたウイルスについて、2014年から今年にかけて7型はあまり報告されていません。（図2）

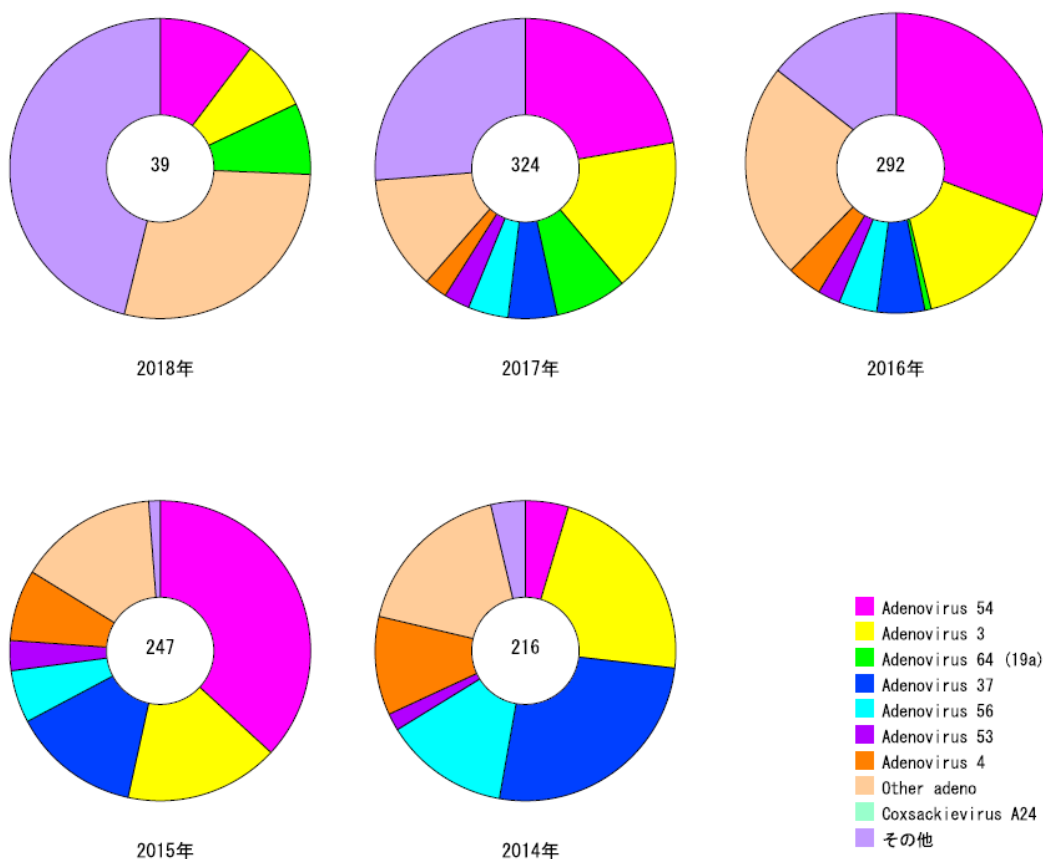


図2 流行性角結膜炎患者から分離・検出されたウイルス（2014年～2018年）

\*円グラフの中の数字は各年ごとの分離・検出報告の総数（本年5月7日までに報告された数）

## 6 咽頭結膜熱

臨床診断名が咽頭結膜熱の検体 1 件（検体採取 3 月中旬・検体番号 180108）について検査を行ったところ、アデノウイルス 2 型が検出されました。

国立感染症研究所の病原微生物検出情報（5 月 7 日作成）によると、全国の流行性角結膜炎患者から分離・検出されたウイルスについて、2016 年以降、2 型が最も多く報告されています。（図 2）

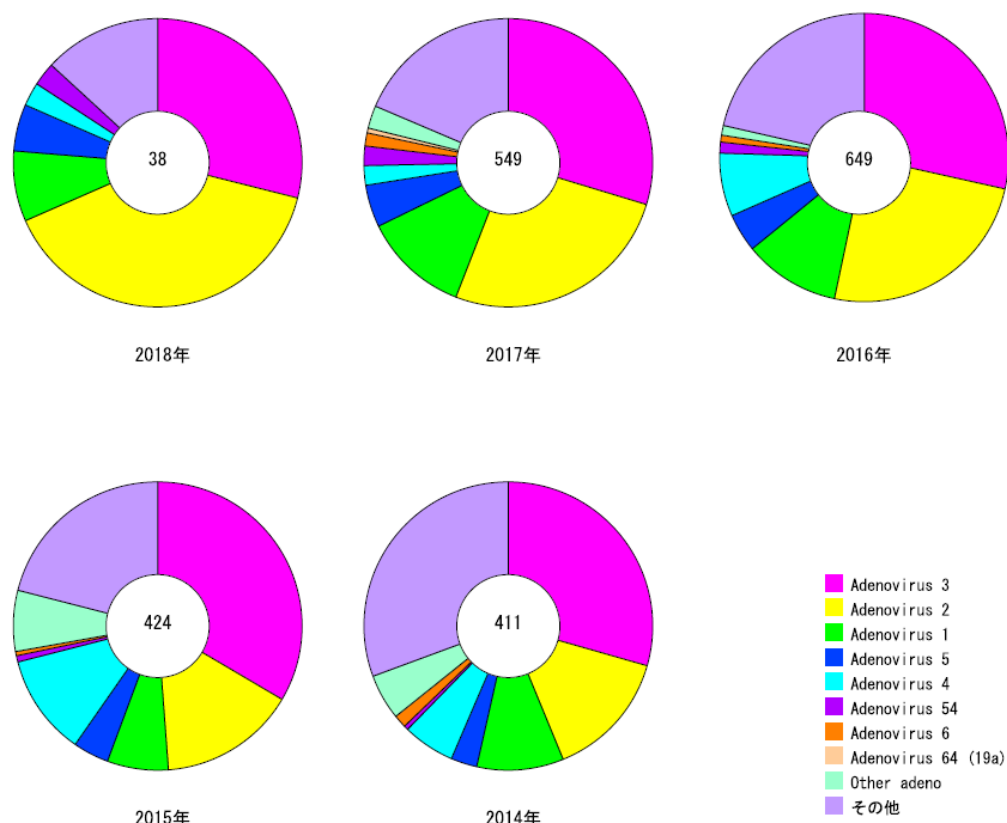


図 3 咽頭結膜熱患者から分離・検出されたウイルス（2014 年～2018 年）

\*円グラフの中の数字は各年ごとの分離・検出報告の総数（本年 5 月 7 日までに報告された数）

## 7 A 群溶血性レンサ球菌感染症

臨床診断名が A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎の検体 1 件（検体採取 3 月上旬・検体番号 180107）について検査を行ったところ、A 群溶血性レンサ球菌が分離されました。分離された菌について、T 型別を行いましたが、型別不能でした。

## 8 無菌性髄膜炎

臨床診断名が無菌性髄膜炎である検体 1 件（検体採取 4 月上旬・番号 180095）について、ムンプスウイルス、アデノウイルス、エンテロウイルス、ヘルペスウイルスの検査を行いましたが、これらのウイルスは検出されませんでした。